

## 農 P0 フィルムと花粉交配用ミツバチについて

農業用ハウスに長年使われてきた塩化ビニールフィルム（農ビ）は、「ポリオレフィン系特殊フィルム」（農 P0）へ取って変わられました。

軽くべとつかず取扱いが容易で、伸縮が小さくハウスバンドが不要、耐久性にも優れ、塩素を含まず焼却時にダイオキシンを発生させない、可塑剤が使われていないため環境ホルモンを出さないなど、良いことづくめの優れた特徴を備えています。

しかし、農ビと比べて農 P0 のハウスでは、ミツバチが早く減る傾向があります。特に新しく張り替えた年には巣に帰ることができず急激に減ってしまいます。

ミツバチは人には見えない波長 300~400 ナノメートルの光（紫外線領域）を強く感知して、太陽と花と巣箱の位置関係を正確に認知します。この領域の UV をカットした農 P0 フィルム製品があり、ミツバチへの影響を無視したまま普通品と同じ商品名で販売されていることもあります。

10 数社が数多くの農 P0 製品を販売しているながら、ミツバチへの影響について説明のある製品は少数です。各製品の UV チャートがネット上で照会できるので、購入前に確認してください。

情報開示が無いメーカーの製品は、購入しない方が無難です。

もう一つ問題があります。農ビには坊曇剤・流滴剤が添加されていますが、農 P0 では分解消失が早いため、表面加工（コーティング）してあります。そのため入射光が屈折・散乱してミツバチの定位飛行に影響し、また流滴剤を含む水がハウス側壁に流れ、ミツバチがそれを吸水することで中毒死する可能性もあります。

識者の話では新しく張り替えた際には、動力噴霧器で内側から流滴剤を洗い流しておけば、初年度の蜂減りが防げます。フィルムの耐久性に大きな影響は無いそうです。

ハウス内にウキを浮かべた水飲み場を設けてやることも効果的です。

P0 には保温強化剤が添加されて透明度が低い製品が多いものの、透明度と光の透過性には関連が無く、むしろ農 P0 の方が光の透過性が高いと言われます。ガラス温室の例で明らかのように、光の透過性が高いハウスでは、ミツバチはフィルムを通過できると誤認識して外へ出ようともがいて消耗する結果、多くが斃れてしまいます。

長期間栽培のイチゴの場合は、途中で蜂がいなくなると再度蜂群を購入しなければなりません。

農 P0 に置き換わった現在、影響を議論してもしかたありません。

問題の無い製品もあるので、販売店・メーカーなどとよく相談されることをお勧めします。